

異年齢の子どもとの関わり

朝と夕方、異年齢の友達と遊ぶ時間があります。年下の子どもに優しくする気持ちを持ったり、年上の子どもの行動を見て、自分もやってみようという意欲を抱き、まねっこしたりを楽しんでいます！

なにになに？



もしもしする？



ぼくも！
もしもし～！



ちいさいおともだち、
みてみて～！



ぼくも～！
おどってみよ～！



見ててね～！



すごーい！

ホームクラスの年長組のお友達が、自分で靴を履こうと頑張っている1歳児と出会う、「○○ちゃん、くつはくよ～」
「ここに足入れて～」と、優しく声をかけて、応援してくれました。
「わあ、優しくしてくれてありがとう！」
「いいよ～！ひよこさん、かわいい～！」
1歳児が「ありがとう」とぺこり！

小さな子どもに伝える経験から、人に丁寧に教える術を学び、見本になろうという思いから、身の回りのことを率先して行おうとする気持ちが生まれます。お世話をして保育教諭から褒められることで、自信をもった子どもたちは、生き生きとしています！異年齢の保育の中で関わる子どもたちの姿が、とても可愛いらしいです。

いつも収穫した野菜を見せに来てくれる、年長組のお友達！
「今日は何かな～？」
楽しみに見えています！

